

第5次
富士宮市地球温暖化対策実行計画
(事務事業編)

令和4年度結果報告書

令和5年11月

富士宮市 環境企画課 環境エネルギー室

1 計画の概要

(1) 計画期間

実行計画の期間：2020（令和2）年度～2030（令和12）年度

本計画の期間は、2020（令和2）年度から2030（令和12）年度までの11年間としています。本計画の策定に当たっては、基準年度を2013（平成25）年度として削減目標等を定めます。

なお、社会情勢の変化、法改正等により、必要に応じ見直しを行います。

(2) 温室効果ガス排出削減目標

削減目標：2030（令和12）年度までに2013（平成25）年度比で41.7%削減する

分野別排出量の削減目標を、次のとおり設定します。

（単位：t-CO₂）

排出起源		基準年度実績 2013(平成25)年度	2030(令和12)年度目標	
電気の使用		16,445	電力使用量の削減及び新エネルギー等の導入により、温室効果ガス排出量を基準年度比で約16%削減します。	13,900
燃料の使用	都市ガス	3,248	燃料使用量の削減及び新エネルギー等の導入により、温室効果ガス排出量を基準年度比で約3%削減します。	3,150
	LPガス			
	A重油			
	灯油			
	ガソリン・軽油 (公用車燃料除く)			
公用車燃料		426	公用車使用による燃料(ガソリン及び軽油)使用量の削減により、二酸化炭素排出量を基準年度比で約16%削減します。	360
プラスチックごみの燃焼		24,534	プラスチックごみの焼却量の削減により、二酸化炭素排出量を基準年度比で約70%削減します。	7,800
その他 ・自動車(エアコン、走行) ・下水、し尿の処理		1,973 (平成25年度値が不明のため、平成26年度実績値を使用)	可能な限り削減に努めますが、数値目標は定めません。	1,973

(3) 計画の対象物質

本計画では、温対法第2条第3項が対象としている下記の7種類の温室効果ガスを対象とします。

名称	概要	地球温暖化係数 (温室効果)
二酸化炭素 (CO ₂)	主に石油や石炭などの化石燃料の燃焼により排出されます。エネルギー消費を伴う日々の生活と密接に関係しています。	1
メタン(CH ₄)	水田や家畜の腸内、廃棄物最終処分場における有機物の嫌気性発酵等において発生します。	25
一酸化二窒素 (N ₂ O)	化石燃料や一般廃棄物の燃焼、農用地の土壌や家畜排泄物等から発生します。	298
ハイドロフルオロ カーボン類(HFCs)	冷凍機器、空調機器の冷媒や断熱材等の発泡剤等に使用します。オゾン層を破壊しませんが、強い温室効果があります。	12~14, 800 【1,430(HFC-134a)】
パーフルオロ カーボン(PFCs)	主に半導体の製造工程等において使用されます。強い温室効果があります。	—
六ふっ化硫黄 (SF ₆)	主に電気絶縁ガスや半導体製造工程等において使用されます。強い温室効果があります。	—
三ふっ化窒素 (NF ₃)	半導体製造でのドライエッチングやこれらの製造装置のクリーニングに使用。	—

2 温室効果ガス排出状況

(1) 種類別の温室効果ガス排出量

(単位：t-CO₂)

温室効果ガス の種類	年度		
	令和3年度	令和4年度	前年度比
二酸化炭素(CO ₂)	27, 834	29, 250	5. 1%増加
メタン(CH ₄)	380	381	0. 3%増加
一酸化二窒素(N ₂ O)	1, 175	1, 146	2. 5%削減
ハイドロフルオロカーボン類 (HFCs)	4	4	—
パーフルオロカーボン(PFCs)	—	—	—
六ふっ化硫黄(SF ₆)	—	—	—
三ふっ化窒素(NF ₃)	—	—	—
合計	29, 393	30, 781	4. 7%増加

※小数点以下を端数処理(四捨五入)しているため、合計と一致しない場合があります。

(2) 温室効果ガス排出量とその推移

(単位：t-CO₂)

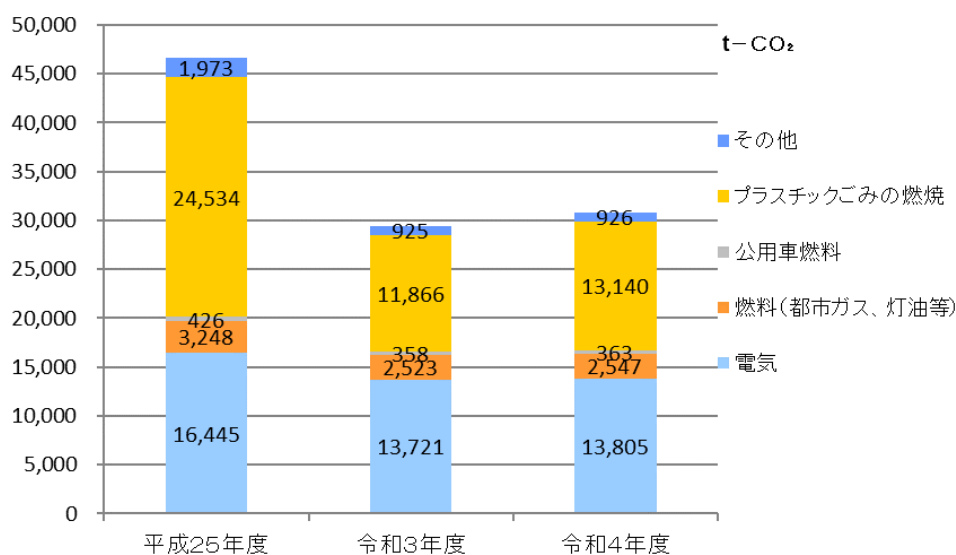
排出起源		年度	平成25年度 (基準年度)	令和3年度	令和4年度	基準年度比	前年度比	令和12年度 (目標値)
電気の使用			16,445	13,721	13,805	-16.1%	0.6%	13,900
燃料の使用	都市ガス		3,248	2,523	2,547	-21.6%	1.0%	3,150
	LPガス							
	A重油							
	灯油							
	ガソリン・軽油 (公用車燃料除く)							
公用車燃料			426	358	363	-14.8%	1.4%	360
プラスチックごみの燃焼			24,534	11,866	13,140	-46.4%	10.7%	7,800
その他 ・自動車(エアコン) ・下水、し尿の処理			1,973	925	926	-53.1%	0.1%	1,973
合計			46,626	29,393	30,781	-34.0%	4.7%	27,183

※小数点以下を端数処理(四捨五入)しているため、合計と一致しない場合があります。

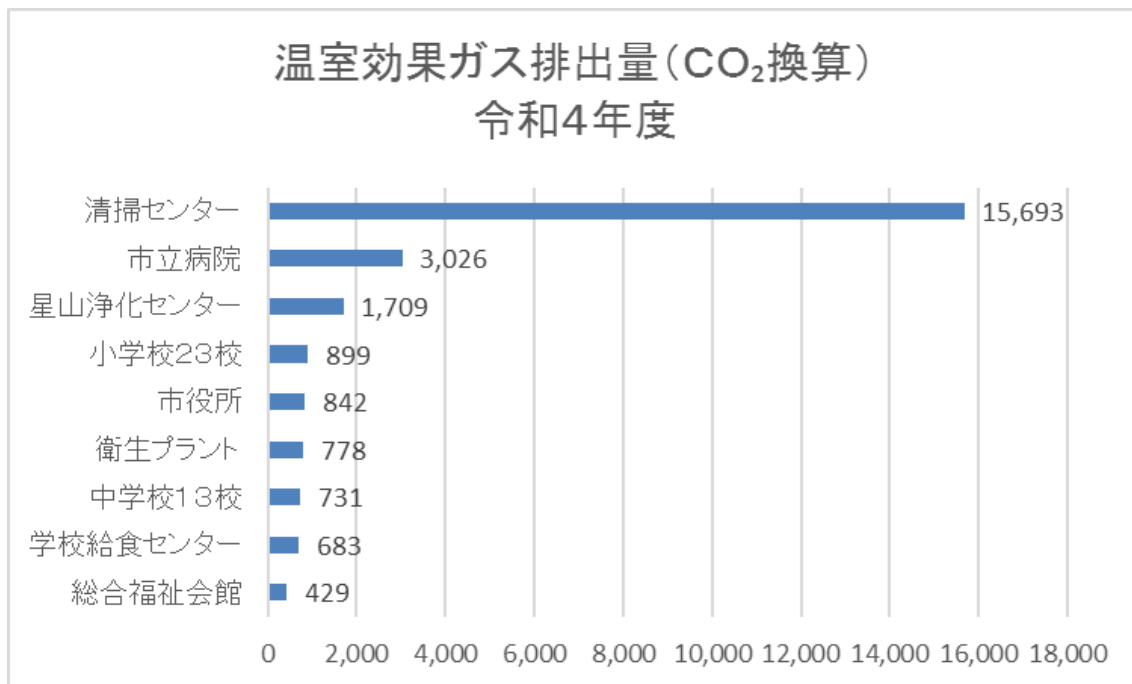
令和4年度の排出起源別温室効果ガス排出量のうち電気及び燃料の使用については、新型コロナウイルス感染症対策に伴う行動制限が緩和され、各施設での休館や利用時間の短縮等がなくなったこと、イベントや戸別訪問等で外出の機会が増加したことにより、前年度と比べて温室効果ガス排出量が増加しています。

また、上記のほかに、厳冬によりエアコンや石油ストーブの使用が増加したことで、電気や灯油の使用が増加しています。一方で、本庁舎での冬季の空調の設定温度の引き下げにより、都市ガスの使用は減少しています。

プラスチックごみの燃焼については、清掃センターで焼却するごみに占めるプラスチックの割合が増加したことにより、温室効果ガス排出量が前年度より増加しています。



(3) 主要施設別の温室効果ガス排出量

(単位：t-CO₂)(単位：t-CO₂)

施設名	二酸化炭素 (CO ₂)	メタン (CH ₄)	一酸化二窒素 (N ₂ O)	合計
清掃センター	15,088	1	604	15,693
市立病院	3,026	-	-	3,026
星山浄化センター	1,035	213	461	1,709
小学校23校	899	-	-	899
市役所	842	-	-	842
衛生プラント	721	44	13	778
中学校13校	731	-	-	731
学校給食センター	683	-	-	683
総合福祉会館	429	-	-	429
合計	23,454	258	1,078	24,790

※市の事務事業全体で排出された温室効果ガスは、国の法律に従い、CO₂の排出量に換算し、表記しています。

上図は施設別の温室効果ガスの排出量について、温室効果ガス別に示した図と表になります。

二酸化炭素については、プラスチックごみの燃焼からの排出量が多いことから、清掃センターが最も多く、次いで市立病院、星山浄化センターからの排出の順となっています。

メタンについては、星山浄化センターの下水処理からの排出が最も多く、次いで衛生プラントからの排出となっています。

一酸化二窒素については、清掃センターのプラスチックごみの燃焼からの排出が最も多く、次いで、星山浄化センターの下水処理からの排出の順となっています。

3 令和4年度取組結果

(1) 省エネ設備の導入

施設名称	導入設備
市役所	LED 照明(委員会室等)
鞍骨沢最終処分場	LED 照明
あすなろ園	LED 照明
市立病院	LED 照明(1階)
富士根南公民館	空調設備の更新
芝川公民館内房分館	空調設備の更新
埋蔵文化財センター	空調設備の更新

(2) 太陽光発電システムの導入

施設名称	設置容量	売電状況
市営万野住宅D棟	10.0kW	余剰売電

(3) 公用車の利用状況

車	台数
プラグインハイブリッド車(PHV)	2台
電気自動車(EV)	2台